

様式第2号（第5条関係）

令和7年9月19日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員 端 師 孝



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和7年8月20日
- 2 旅 行 先 オンラインによる研修受講
- 3 目 的 2025年度地方議員・公務員向けサマースクール
- 4 関係書類 別紙のとおり



観光協会や
道外の皆さんも
受講可能！

この夏、全道の
同志と交流しま
せんか？

**受講者
募集！**

2025年度 地方議員・公務員向けサマースクー

テ
ー
マ

**北海道の豊かな自然と資源を
生かした観光まちづくり**



2
日
コース

2025年

8月20日(水) 》 21日(木)
13:30~17:30 》 10:00~16:00

開催方法：対面（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟）
定員：40名程度 ※8/20（水）オンライン受講可

1
日
コース

2025年

8月20日(水)
13:30~17:30

開催方法：オンライン
定員：100名程度
※8/21（木）講演④の
オンライン受講可

プログラム

講演① 地域資源の観光活用～魅力づくりの事例集
静岡県立大学経営情報学部 講師 寺崎 竜雄 氏

講演② にっぽんの田舎を元気にする！
株式会社 Local Governance 代表 寺本 英仁 氏

講演③ エコツーリズムと宝探しによる観光まちづくり
文教大学大学院国際学研究科長・教授 海津 ゆりえ 氏



8.20

講演④ 信州いいやま観光局と着地型コンテンツ開発
北海道大学観光学高等研究センター 准教授 小泉 大輔 氏

グループディスカッション・発表・講評

8.21

※プログラム等は、諸事情により変更となる可能性があります。

対象・受講料（税込）

| | | |
|------|---------------|---------------|
| 地方議員 | 【2日コース】8,000円 | 【1日コース】6,000円 |
|------|---------------|---------------|

※立候補予定者を含む。

| | | |
|-------|---------------|---------------|
| 地方公務員 | 【2日コース】6,000円 | 【1日コース】4,000円 |
|-------|---------------|---------------|

※出向、休職等で地方公共団体以外の機関（観光DMO、大学等）に所属する者を含む。

※2025年度については、観光協会や観光DMO・DMC職員の申込も可能。

【主催】北海道大学公共政策大学院

【後援】北海道市長会・北海道町村会・北海道市議会議長会・北海道町村議会議長会 【協力】北海道

サマースクールの特長

- 講義では、各分野の第一線で活躍する道内外の有識者を講師として招聘します。
- グループワークでは、本大学院の専任教員が進行をサポートします。

講師プロフィール

| | |
|---|---|
| <p>寺崎 竜雄 (てらさき・たつお) 氏 静岡県立大学経営情報学部 講師</p> <p>(公財)日本交通公社研究員(元常務理事)として、長年、全国各地の観光地や自治体に出向き、調査研究と地域支援を行ってきた。専門分野は、観光政策、地域資源管理、エコツーリズム。</p> | <p>寺本 英仁 (てらもと・えいじ) 氏 株式会社 Local Governance 代表</p> <p>島根県邑南町役場の職員としてA級グルメ構想や耕すシェフ制度等を手掛け、町を地方創生の優等生に育て上げた「スーパー公務員」。NHK『プロフェッショナル仕事の流儀』にも出演。東亜大学客員教授。</p> |
| <p>海津 ゆりえ (かいづ・ゆりえ) 氏 文教大学大学院国際学研究科長・教授</p> <p>自然や生活文化、人などを「宝」として守り、継承し、観光によって外の力を使いながら地域の持続ある発展を住民参加で実現する「エコツーリズム」を西表島、檜原村、奄美群島、裏磐梯などを舞台に研究・実現。</p> | <p>小泉 大輔 (こいずみ・だいすけ) 氏 北海道大学観光学高等研究センター 准教授</p> <p>長野県飯山市観光協会での初専任職員として法人化と着地型旅行業の立上げ、歩く旅による地域ブランド構築、観光局設立等を手がける。福島県で震災復興を担う観光人材育成にも従事。</p> |

受講申込について

- 申込方法
WEBサイトで必ず詳細をご確認の上、お申込みフォームをご利用ください。
<https://www.hops.hokudai.ac.jp/social/summerschool2025/>
- 申込締切 【2日コース】 2025年 7月 4日 (金)
【1日コース】 2025年 7月 11日 (金)
- 注意事項
 - ・ 2日コースでは、受講申込が受講定員を大幅に超える場合には、WEBサイトに記入された「受講目的」を勘案し、受講者を決定いたします。
 - ・ 2日コースの受講者は、各自、グループディスカッションで発表するための簡潔なレポートを事前に提出する必要があります。
- お問い合わせ先
サマースクール事務局：グラフィイト (担当：溝渕)
メール：hops.mizobuchi@gmail.com 電話：090-9759-9611
※都合により電話に出られないことがあります。折り返しご連絡いたします。お急ぎの場合はメールをご利用ください。



| | |
|---|--|
| 日 時 | 令和 7 年 8 月 20 日 13:30 ~ 17:30 |
| 視 察 先 | オンラインによる受講 於：自宅 |
| 調査事項 | HOPS 北海道大学公共政策大学院 2025 年度地方議員・公務員向けサマースクール 1 日コース・オンラインによる研修受講 |
| 対 応 者 | 講演 1 静岡県立大学経営情報学部 講師 寺崎竜雄氏 講演 2 株式会社 LocalGovernance 代表 寺本英仁氏 講演 3 文教大学大学院国際学研研究科長・教授 海津ゆりえ氏 |
| 1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など) | <p>1. 目的 「北海道の豊かな自然と資源を生かした観光まちづくり」</p> <p>全国各地の各自治体では、共通の目標に向けてしのぎを削っている。しかしながら、インバウンドが増大する中で取り組むも恩恵に結びつかない市町村が多く、一部では観光公害と呼ばれる被害が頭を悩ませている。北海道とりわけ今回の参加者の住む地域の資源を念頭に、地域発の観光まちづくりのために必要な着地型の旅行コンテンツづくりやそのための手法や組織体制等を中心に、基本的な考え方や具体的な事例を通じて学ぶ</p> <p>※「着地型の旅行コンテンツ」：観光地側の地域発＝着地型、旅行コンテンツ＝単なる観光資源ではなく、それを観光に使えるように工夫をくわえ磨き上げたもの。</p> <p>2. 内容 2005 年エコツーリズム推進法が環境省より出てきて、20 年あまりたっている。法律があるあいだはずっと国の事業は展開している様々あるが、国が宣伝してあげるが多少あっても、続かないところは口々に国の支援事業はこんなものだから続かないと言われる。その中で、国の支援が届かなくなっても今でも残っているのは、このエコツーリズムの考えが地域に受け入れられている。その大きな理由は、やろうとしていることが本当に地域にとっていいことになることであって、将来にわたって大切だという理念が共感共鳴されているからということです。</p> <p>(1) 地域資源の観光活用 ～ 魅力づくりの事例集 地域によって現状おかれている課題が異なり、型にはめることは難しい。地域の状況に応じたエコツーリズムの推進が必要。しかし、2025 年現在に至っても環境省エコツーリズム推進会議から 22 年、エコツーリ</p> |

ズム推進法の施行から 17 年経ってもエコツーリズムが地域に受け入れられているのは、日本型のエコツーリズムは、ゆるやかな概念で地域主体ボトムアップの取組、具体的な行動を提示、人のつながり上質なコミュニケーションの仕組みが特徴になっているため。そこから、新たな魅力づくり（プログラムづくり）が、それぞれ関係者をつなぎ地域主体の観光を行うことができる事例が増えている。その推進体制には、ローカルサイエンティストとよばれる研究者が必要。推進協議会と地元行政をつなぐ役割を担う存在で、地域外はあくまでサポーターとして位置づけする。主役である地元を、研究者が地域の自律を促すために成功体験の創出や観光の意義の共有を行って地域の中の関係者をつなぐことに力をいれる。「地域資源を観光に活用し、ガイドや仕組みで付加価値をつけ、収益を地域に還元することが持続可能な町おこしにつながる」という点ですが、やはり観光客の集客の体系と高い満足、地域経済の安定的な収入、資源の最適な状態、住民の安心安全な暮らしがうまくバランス保たれてる状態を描きながら物事進めていくということがすごく大切。

(2) につぼんの田舎を元気にする！

・寺本英仁氏は、職員として 28 年間、最終は商工観光課長で現在は退職している。職員時代に、スーパー公務員と呼ばれた町おこしの事例

・東京で地元の和牛を直接売るチャンスを得た際に、和牛自体はとても好評だったが先方が指定した取引量が町全体が 1 年間に生産する量と同量だったために断念した。その後、山形県のあるレストランに出会い感動した経験をもとに、邑南町では、地元の食材を活かした「A 級グルメ」プロジェクトを立ち上げ、まちぐるみで一流シェフを招いてレストランを開業。その後から一流シェフを迎えることが困難になった際に発想をかえ、シェフの育成に取り組み効果をあげた。道の駅と連動し、シェフの扱う食材が手に入ると集客に結びつけた。町全体で食と観光を結びつける仕組みをつくり、移住者を呼び込み、地域経済を活性化させました。その結果、過疎化に一定の歯止めがかかり、町のブランド力も向上しました。その成功体験を分析し、結果共通点は何か

1. オリジナルを追求するオンリーワンを目指す。高価値を生む。
2. 知られる努力をすること
3. 全員ではなくターゲットを絞って、認知度を上げることが必要
4. ブランド分析を行う

(3) エコツーリズムと宝探しによる観光まちづくり

・エコツーリズムの基本概念について、観光はポジティブなイメージを持っているが、ポジティブ面が強ければ強いほどネガティブな面もじつは強い。観光は経済的なメリットをもたらす一方で、自然環境や地域社会に

負荷を与えることがある。世界では1960年代から自省を重ねて、1960年代以降、観光による自然破壊や文化への影響が国際的に問題視され、エコツーリズムという概念が登場。現在では、守るから再生へつなげるサステイナブルツーリズムという考え方になってきている。その背景には、国際観光客（国境を越えてやってくる観光客）が増加しもうこの先減らないだろうということが顕著になってきている。

・日本におけるエコツーリズムの動き

日本では1990年代から環境省・観光協会を中心に導入が始まり、2007年には「エコツーリズム推進法」が制定。観光旅行者が自然観光資源について知識を有する者から案内または助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつふれあい、これに関する知識及び理解を深めるための活動をエコツーリズムの定義として、成功するためには地域住民の理解と協力が重要で、自治体・住民・研究者・旅行会社などが協力し、ルールづくりや資源管理を行う体制が求められる。

地域住民：ガイドや受け入れ側として主体的に関わる。

行政：資源管理や制度設計を行う

専門家：調査・教育・アドバイスで支援。

旅行会社：質の高い観光商品を提供し、持続可能性を担保。

NPO等：全体のコーディネーター役。

・宝探し型観光まちづくりとの関係

宝探しゲームのような「体験型・参加型コンテンツ」は、地域資源を活かしながら観光客を呼び込みやすい。ただし集客だけでなく、エコツーリズム推進法の認定を得て行うと自然や文化を守り、住民と観光客の双方が楽しめる仕組みを作ることが重要ということに気づける。ひとり何役もこなすのではなく、仕組みづくりからつぎにつなげるアクションを行い、各関係者と関係構築し連携が必要になる。こういった、宝さがしは地域を元気にする。なぜなら、身近な資源の価値の再発見する機会になり、共有したい未来への遺産がみつきり、地域を自慢し語れるようになるからといます。

4. 感想

近年「文化財」「炭鉄港」に焦点があたり栗山町も対象になる。ほか、栗山町は従来からの取組として、里山計画としてハサンベツや雨煙別川で自然プログラムをしていたり、新たな要素を加えての栗山煉瓦創庫くりふとなどによって関係人口を創出している。しかし連携という意味では、地域住民が加わっていなかったり、専門家が入っていなかったり、まとまりという意味では余地があるように思える。例えば、エコツーリズム推進法の認定手順に沿って、推進協議会の仕組みづくりをし本日の学びを実践していくことでプラスになるように感じられた。今後活かしていきたい。